
はじまりの時

透子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
はじまりの時

【Nコード】
N5709K

【作者名】
透子

【あらすじ】
亜由子の前に訪れた一人の男。
異世界トリップ前のやりとりのみをかいてます。

「小さい頃はね。妹が嫌いだったの。私より可愛くて、明るくて、みんなに愛されていて。」

妹が太陽なら私は月だった。だからいつも突き放すようなことをして、今想うとひどい姉ね。」

亜由子は店先に出した花をしまったため外に出た。陽は落ちて辺りは暗くなりつつある。

空を見上げたが今日はあいにくの天気だったためか月は見えなかった。新月なのかもしれないけど。

「そんな姉にも妹は笑ってくれるの。いつも私の憂いを払拭するかのように。それが余計にみじめな気持ちにもさせられたけど、やっぱり救われたわ。」

店先から店内を見たが彼の人は微動だりせず立っていた。その表情は闇に隠れてわからない。

花をすべてしまうと念入りに片づけを行った。

明日の朝はアルバイトの恭子ちゃんがきてくれることになっている。店の鍵と一緒に手紙も置いておこう。それと一緒に会社の電話番号を書いておけばしっかり者の彼女のことだからうまくやってくれるはず。

いろいろと段取りを考えながら、最後の花束を作る。

「私は貴方たちの国のことはわからないけれど、たぶん求めている人は私じゃなくて妹よ。」

妹の乃里子の笑顔が脳裏に浮かぶ。亜由子にとって彼女のイメージは淡いイエローだったが、やっぱりこの花束は白を基調とすべきだろう。この花束のためにとっておいたユリを合わせる。

「我々が望むのはスイリアさまの血筋である。貴方であろうと妹君であろうとその血は変わらない。」

今までひたすらに沈黙を貫いていたその人は花を見つめながらそう答える。

その声は低く言葉は冷たかったが、亜由子はなんだか自分が慰められた気がした。

思わずクスッと笑うと、彼は眉を寄せた。ようやく剥がれたポーカ―フェイスに亜由子は更に笑みをこぼした。

花束は亜由子が考えていた以上に大きくなってしまった。でもこれは新たな人生の門出だ。大きくたっていいだろう。出来上がって持ち上げてバランスを確認する。うん良い出来。それはあくまで妹のためのものではあるが自分への饒はなむけのようにも感じられた。

宅配用の箱につめ、亜由子とはすでに違う名字になった妹の名前を書く。

「・・・妹君に話をしなくて良いのか？」

「妹は結婚するの。ずっと一緒にいた幼馴染と。私と彼女どちらがよりこの世界に必要とされているかを考えたら、自然と出る答えだわ。」

亜由子はきっぱりと強い口調で言った。それに対する答えはない。

ただ、大きな掌だけが差し出された。亜由子がその手をとるときゆつと強く握り返される。

「では行こう。我々の世界は貴方を必要としている」

亜由子はまぶしい光に包まれる。花たちだけが彼女の出發を見守っていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5709k/>

はじまりの時

2010年10月15日17時04分発行